

【委員会活動の事前・事後指導】での活用事例（小学校第5学年）

【活用した資料】

- 小学校版「心たくましく」 p.28 第一章 「人はどんな場合にいても・・・」 国木田 独歩

【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 4－（4）「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」

○ 委員会活動のスタートに当たって

高学年になり委員会活動がスタートします。その事前指導の時に、『心たくましく』p.28「人はどんな場合にいても…」のことは児童に提示しました。今まで高学年の先輩がしてきた学校のみんなのための仕事を、これからは自分たちがすることになります。「仕事においては、楽にできることばかりではなく、様々な苦勞もあるだろうが、どんな状況にあっても楽しめる心が、その人の人生を幸福なものとするのである。」というこのことばの意味を考えさせました。委員会活動の中には、自分が好きでない仕事をしなければならない場合もあるし、同じことのくり返しに飽きてしまうこともあるかもしれないが、前向きに考えて、積極的にみんなの役に立つことの喜びを見いだしていこうとする意欲をもたせることができました。

○ 委員会活動の振り返りに当たって

学期末になり、あらためてこの「人はどんな場合にいても…」のことは提示して委員会活動の振り返りを行いました。「大変なこともあったけれど、一生けん命やったから楽しかった。」「先生や友達が、がんばっているねとほめてくれた時、一つ一つの仕事をがんばってやってきてよかったと思った。」等の感想が挙げられました。これからも積極的に、学校のために役立つ委員会活動に取り組んで行こうとする気持ちを高めていくことができました。